

第 10 回 西日本インカレ（合同研究会）専用企画シート

必ず「企画シート作成上の注意」をご確認いただき、ご記入をお願いいたします。

大学名（フリガナ）	学部名（フリガナ）	所属ゼミナール名（フリガナ）
リュウコクダイガク	ケイザイガクブ	ウエヤマ ゼミ
龍谷大学	経済学部	上山 ゼミ

チーム名（フリガナ）	代表者名（フリガナ）	チーム人数（代表者含む）
インスタバエ	ニシムラ ケイスケ	7 人
インスタ映え	西村 圭佑	

研究テーマ（発表タイトル）

現代における日本の食品問題

1. 研究概要（目的・狙いなど）

2017 年に 10 代女子が選ぶ流行語大賞で大賞に選ばれた「インスタ映え」だが、その華やかな写真の裏側では、Instagram へ投稿することを目的として食品を撮影し、食べ残しをする若者が増加していることが問題になっている。「インスタ映え」の代償として、たくさんの食品ロス・食糧ロスが生じているのだ。食品ロス・食糧ロスとは、売れ残りや食べ残し、期限切れ食品など、本来食べることができたはずの食品が廃棄されることを指す。私たちはまだ食べることのできる食品を粗末にする現状に問題を感じ、食べ物に感謝して賢く食べる消費者になる必要があると考えている。

そこで、私たちが注目したのは学校給食である。アンケート結果からもわかるように、学校給食で習慣的に苦手な食べ物を避け、食べずに廃棄するという考え方が根付いていると考え、教育と食品ロスの関係に着目した。学校教育に、稲刈りや田植え、動物の飼育など体験型の食育授業を取り入れることで、未来を担う子供たちが食べ物に対して丁寧に謙虚な気持ちをもつ様になり、そのような経験は持続可能な社会を実現するための新たな消費者の誕生に貢献するのではないかと推察した。

2. 研究テーマの現状分析（歴史的背景、マーケット環境など）

環境省の調査によると、平成 25 年度小中学校における学校給食からの食品廃棄物が、年間で生徒一人あたり 17.2kg 発生していることが明らかになった。環境省によると、学校給食から発生する食品ロスの削減にむけ、食育・環境教育に関する取組として、食べ残しの削減を目的とした食育・環境教育の取組を行っている市区町村が存在した。その内容は、食品廃棄物のリデュース・リサイクル等を題材に含めた特別授業・委員会活動等の実施、堆肥化施設や飼料化施設の施設見学や農家での体験学習等の実施などが一定数見受けられた。

3. 研究テーマの課題

日本の食品廃棄物等は年間約 2,759 万トン。そのうち食べられるのに捨てられる「食品ロス」の量は年間約 643 万トンと推

計されている。Instagram などの SNS の普及により、いかに多くの人から高い評価を得ることが出来る写真を投稿できるかを重視する人々が増加した。そのためまだ食べる事ができるのに捨ててしまう「食品ロス」や食べ残しなどを含めた「食品廃棄」に拍車がかかっているこのような中、昨今の SDGs 推進の流れとも相まって、日本でも取り組みがなされ始めている。

日本の食品業界では食品ロスを目的とした SDGs の取り組みを、積極的に導入する企業が増加している。しかし、消費者に SDGs の理解度が浸透しない限り、企業が SDGs を目的とした商品を開発しても消費者に受け入れられないので、市場に出回ることがない。そこで、食品ロスの認知度を高め、消費者として、環境や社会に配慮した商品であることを見抜き、見る目を養う能力をつけることが今後の課題である。

4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

SDGs を達成するためには、持続可能な社会を作り上げる環境が必要になる。社会に大きな影響を与える企業が SDGs を導入することは社会問題の早期解決に繋がり、持続可能な社会の実現に近づけることが出来る。しかし、我々は習慣的に身についた行動が、環境や社会に悪影響をもたらしていることを考えず、未来を見通す能力に欠けている。そこで、新しい消費者を作り出し、持続可能な社会を作り上げる環境を作り出すため、日本の未来を担う小中学生を対象に食育活動を通して食品ロスの減少を試みる。牛や豚の命に触れ、実際に餌やりや牛の搾乳を行うことが食品ロスの減少に貢献すると考える。田植え～稲刈り・野菜の栽培などは、実際に最初から育てることで、食材ができる過程を知り、栽培する人に感謝をする。



5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

「インスタ映え」と食品ロスの関係を探り、食品ロスの軽減策を考察するために、若者の Instagram 経験、食品ロスに対する認知度、食品を無駄にした経験や子供のころの食育体験などについて、20代の男女を対象としたアンケート調査を行った。

- ・ 実施期間 2019年9月～10月)
- ・ アンケート回収数 70名
- ・ Google フォームを用いたウェブアンケート方式
- ・ 主な質問項目
 1. 食品ロスに対する認知度
 - ・食品ロスを知っていますか？
 - ・食品ロスの対策を知っていますか？
 2. 食品ロス(食品の破棄、無駄)の経験
 - ・小学生の頃、お昼ご飯は何でしたか？
 - ・食材を捨てたことはありますか？

3. Instagramと食費ロス

- ・あなたは Instagram を使っていますか？
- ・あなたは Instagram に食べ物の写真を載せたことがありますか？
- ・昨年、流行語になった、「インスタ映え」と食料廃棄問題はご存じですか？
- ・あなたが外食をするとき一番重視していることはなんですか？

4. 子供のころの食育体験

- ・小学校の給食について
- ・小学校での、野菜の栽培や稲刈り、乳しぼりなど「食べ物の大切さ」を体験する機会

食品ロスを削減するための取り組み事例の調査

6. 結果や今後の取り組み

20代の男女を対象としたアンケート調査により、若者の食品ロスについての認知度が低いことが明らかになった。食品ロスに対する意識を高めることにより、「インスタ映え」を意識した食品ロスが軽減できるのではないだろうか。また、食品ロスの減少にむけて、高い意識をもった新たな消費者を生み出すため、学校教育を通じた食育活動の観点からのアプローチを考えた。

また、食を通じて SDGs の達成に貢献するために我々大学生ができることもたくさんある。たとえば、大学の食堂で商品を注文するのではなく、あらかじめ WEB で事前注文する方法を考えた。商品の売れ行きと発注する食材の量を把握し、食べ残しや消費期限切れ、過剰発注が出ないようにすることで食品ロスの減少に貢献できるであろう。今度は、これらの仕組みを具体化させていきたい。

7. 参考文献

もったいない！食べられるのに捨てられる「食品ロス」を減らそう

<https://www.gov-online.go.jp/useful/article/201303/4.html>

環境省 学校給食から発生する食品ロス等の状況に関する調査結果について（お知らせ）

<http://www.env.go.jp/press/100941.html>

SDGs（持続可能な開発目標）とは何か？17の目標をわかりやすく解説 | 日本の取り組み事例あり

<https://miraimedia.asahi.com/sdgs-description/>

『食品ロスの経済学』小林富雄著。-- 改訂新版。-- 農林統計出版 2018

「大量廃棄社会 アパレルとコンビニの不都合な真実」仲村和代著、藤田さつき著

農林水産省 食品ロスとは

http://www.maff.go.jp/j/shokusan/recycle/syoku_loss/161227_4.html

●パワーポイント内に動画を使用されている場合、動画を使用しているスライドのページをご記入ください。

●発表時に使用する成果物（例、商品化した●●、店舗で配布したパンフレット、調査に使用したアンケート）

【企画シート作成上の注意】 ※「第10回 西日本インカレ（合同研究会）大会参加要項」も合わせてご確認のうえ、企画シートの作成を行ってください。

- ・本企画シートは審査の対象となり、予選会・本選の前に、審査を行っていただく大学教員・企業の方々に事前にお渡しいたします。
- ・本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1チーム・1点提出してください。また、翌年3月に公開予定の「日経ビジネス電子版」にリンクされた特設サイトに掲載されます。
- ・本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1~7以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。
- ・本企画シートは、作成上の注意を含め、4ページ以内に収めてください。事務局から審査員に渡す際は、A4サイズでプリントし、4ページ目までをお渡しします。
- ・大会参加申込み時点から、チーム編成の変更（チームの人数・交代など）は、「不可」とさせていただきます。ただし、チームメンバーの留学等やむを得ない事情でチーム編成に変更が生じる場合は、西日本インカレ事務局にご連絡ください。事務局より手続きについてご連絡をさせていただきます。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。
- ・商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、版権の使用許諾を得てください。日経BP社・日経BPマーケティングは一切の責任を負いません。
- ・書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先（使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など）を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Webサイト上の資料を利用した場合は、URLとアクセスした日付を明記してください。
- ・発表時に使用する成果物がありましたらご記入ください。記入がない成果物は大会当日使用することができません。また記入いただいた内容について、事務局から代表者の方に確認をさせていただく場合がございます。
- ・電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

↑ここまでを4ページ以内に収めて、提出してください↑